

2024/08/10

犯罪被害者団体ネットワーク ハートバンド

代表 井上保孝・井上郁美

## 東北の犯罪被害者遺族の交流会『語りのタベ@猪苗代』—開催報告



会場となったホテルリステル猪苗代

東北の犯罪被害者遺族がつながり、交流を深めるため、一泊二日の交流会及び講演会を開催した。犯罪被害者団体ネットワーク「ハートバンド」として初の取り組みで、東北初開催となった。

遺族・運営委員・ボランティアと講師の28名が参加し、初日は3名の講師による講演会と東北在住の遺族2名による体験談発表、懇親会で夕食を取りながらの自己紹介と歓談を行った。

二日目の午前中は、赤べこ絵付け体験や陶芸体験、マ釣りなどのアクティビティを宿泊先のホテル並びに移動先の「猪苗代緑の村」にて行い、交流を深めた。

なお、本事業は赤い羽根福祉基金特別プログラムの「被害者やその家族等への支援活動助成」により実施した。



東北在住遺族による体験談発表



講演を聴く参加者たち

### 1. 日時

2024年6月29日(土)～30日(日)

### 2. 場所

ホテルリステル猪苗代 〒969-2696 福島県郡猪苗代町大字川桁リステルパーク

### 3. 参加者

東北各地からの参加者19名（青森3、岩手4、宮城5、福島3、山形4）、講師3名、運営委員3名、ボランティア3名 計28名（うち宿泊者が27名、日帰り参加者が1名）

### 4. プログラム

#### 【6月29日(土)】13:30～17:30 講演会

- 1) 開会のあいさつ ハートバンド代表 井上保孝、井上郁美
- 2) 本郷 由美子 氏（社会福祉士、グリーフパートナー歩み代表、下町グリーフサポート響和国代表）

阪神淡路大震災、大阪教育大学附属池田小学校児童殺傷事件という天災も人災も経験されてきた中で、米国のコロンバイン高校銃乱射事件の遺族と会ったことをきっかけにグリーフケアの大切さを知る。トラウマと違って悲嘆は愛着・愛情がベースにあり、グリーフワークは一人一人違う。その人の生きる力を信じながら寄り添っていくこと、その人の自尊心・自己決定権を尊重して

あげることが大切であることを話された。さらに、地域全体で行うソーシャルグリーフケアや、事件から何年も経ってから怒りや悲しみを口にする同級生やきょうだいのこと、人が安心かつ大切にされていると感じられる場所（「サードプレイス」）づくりの重要性について語られた。

3) 内藤 秀男 氏（元東京高等検察庁検事、鹿児島地方検察庁検事正、現在被害者支援専門弁護士・ブリッジ法律事務所主宰）

1999年の東名高速飲酒運転死傷事故で捜査担当の検察官であったことなどの経験に基づき、業務上過失致死傷罪で最高刑の懲役5年の求刑をすることさえ当時は異例であったこと、求刑の八掛けの判決が出たら検察は控訴しないことが当時の法曹界の常識であったことを話された。さらに、仙台育英学園高校飲酒運転事故、サレジオ学院男子生徒9人死傷事件、全国初の危険運転致死罪での裁判員裁判となった千葉の事件などの事例を紹介しながら、裁判所の説く「処遇の公平性」とはどういうことか、検察はどのように求刑を決めているかなどについて話された。

4) 東北地区の犯罪被害者遺族による体験談の発表

(ア) 渡邊 尚子さん（福島県郡山市）

2009年10月、福島県本宮市の国道で赤信号で停車していた車列に過重労働で居眠り運転のトラックが追突。息子同様の18歳の甥を亡くした。その後心身ともに不調に陥り、翌年5月には仕事の継続も諦める。おばと言う立場での悲しみが周りからなかなか理解されず、誹謗中傷もあり心が折れた経験。「ここには泣きにきて良いからね」と言ってくれる医師と巡り合い、ようやく少しずつ回復していったこと。遺族を支援する体制に地域差があると感じていること等を話された。

(イ) 福井 友望さん（青森県青森市）

スキーやスノーボードの金型を作るという唯一無二の仕事をしていた夫を2022年3月に高齢者による速度超過・信号無視の事故で亡くす。初期報道内容には事実と異なる表現も含まれていたために傷つく。コロナ禍の最中で感染防止のため夫には直接触れることもできず棺に何も入れることもできず火葬されてしまった無念。保険会社のむげな対応などによるストレスより突発性難聴や喘息の症状が出たこと。加害者に禁固2年執行猶予3年の判決が言い渡され司法に絶望したこと。現在進行中の民事裁判でも被害者は蚊帳の外で救われていないと感じていること等を話された。

5) 西田 正弘 氏（交通事故被害者遺族、遺児支援団体勤務）

1972年、12歳の時に交通事故で49歳の父親を亡くしてからの自身のたった52年を振り返られた。高校生の時、他の交通遺児と出会い「一人ではない」と感じたこと。17歳時、「意識不明で横たわる父親の姿」のフラッシュバック体験。49歳前から父親の年齢を超えられるかと揺れ動いたこと。加えて、遺児支援活動の中での震災、自死遺児との出会いとグリーフサポートプ

プログラムの紹介。最近では受刑者に体験を語る中で「償いは可能か」との問いかけを受け、封印してきた「加害者への思い」を話された。

#### 19：00～21：00 懇親会

夕食を取りながら懇親会を開催した。参加者、講師、運営委員、ボランティア全員に自己紹介をしてもらった。その後はめいめいで、特定の人と話をしたり、自分の話を聴いてもらったり、和やかな雰囲気の中で楽しいひと時を過ごした。泊りがけにすることで、帰りの時間や食後に運転することを気にしないでいられる。また、日ごろはなかなか事件のことや自分の気持ちを周りの人に話せない人でも、遺族ばかりの交流会では遠慮なく口にすることができる。被害に遭った事件の年代や態様、亡くなった家族との関係はそれぞれ異なっても、被害者遺族が感じた気持ちや経験してきたことには共通することが多く、会場が共感という温かい空気に包まれていく。初めて会ったもの同士には見えないほど、短時間で打ち解けていく人たちがいた。講師のうち2名は懇親会にも参加されたため、講演会では聞けなかった質問を個人的にする参加者もいた。また、取材で来場していた記者たちに自分の家族が遭ってしまった事件についてどのように理不尽に思っているか語る遺族もいた。

#### 【6月30日(日)】 8:30～12:00 交流アクティビティ

8:30～ 赤べこ絵付け体験（任意）、参加者 15 名

「時間の流れが穏やか、ゆっくりで良かった」という参加者の声に代表されるように、物を作ることに集中しながらおしゃべりも楽しめ、全参加者の満足度がとても高かった。



10:30～ 「猪苗代緑の村」到着、参加者 21 名

創作体験館わくわくで陶芸体験、猪苗代カワセミ水族館、釣堀りでのニジマス釣りなど

12:00 解散

#### 5. 参加者の声・開催の成果

以下、開催後に募った参加者アンケート結果より抽出する。当初の目的であった「東北の犯罪被害者遺族がつながり、交流を深める」ということについては、十分に達成できたと言える。新旧の遺族が交わることができたこと、参加者のほぼ全員が「初めての人と知り合いになれて良かった」を挙げていること、また「参考になる話・ためになる話をたくさん聴けた」という感想も多かった点は特筆に値する。

また、二日目の赤べこ絵付け体験についてはアンケートに回答した全員が「とても楽しかった」と回答していた。思い思いに手を動かしながら、会話や笑いが自然と出る場を提供できたことが好評だった。

#### 講演会についての意見・感想：

- 講演会で、みなさんの様々な体験、同じように苦しい時間を過ごしてきたお話など、

日常では、話せない、聞けない大切なお話を聞くことができ、とても大切な時間を過ごすことが出来ました。また、色々想いを巡らせることができる機会を与えてくださり本当に良い時間を過ごすことが出来ました。ありがとうございました。(宮城県の遺族)

- 今回講演して下さった方々のお話は、たいへん貴重な内容で、興味深く聴かせていただきました。正に聴きたかったお話が聴けた！という感覚です。とても勉強になりました。ありがとうございました。(福島県の遺族)
- とても良い内容であった。初めて聞く話であり、聞きたいこともあったので、質疑応答の時間がもう少し多くてもよかった。(岩手県の遺族)
- 今までの社会との関わりの中で、自分が「遺族」であることで感じた困難が当然のことであり、たくさんの遺族の方々が経験しているのだと知ることができました。(福島県の遺族)
- 共感できる話や他の御遺族の話が聞けて良かった半面、一度聞く情報量が多かったため、受け止めきれなかった感じが少しありました。(岩手県の遺族)

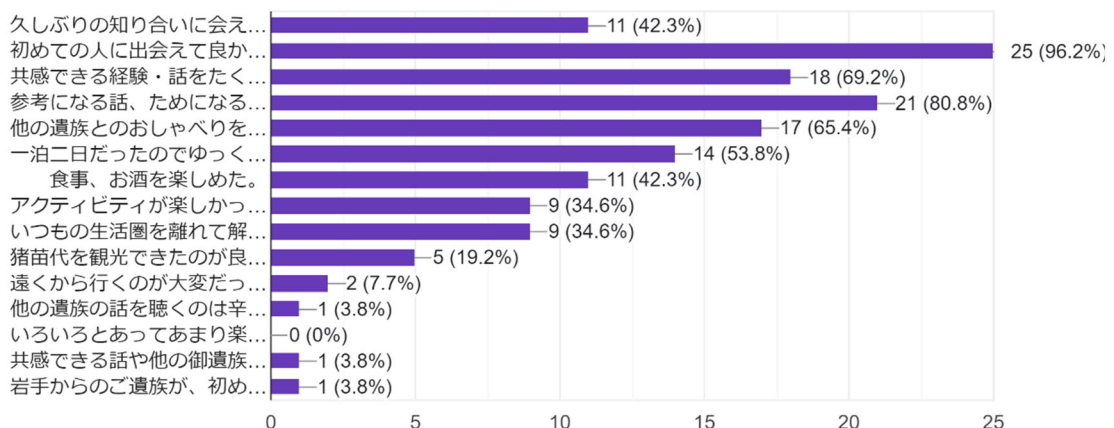
#### 懇親会についての意見・感想：

- 他の方ともゆっくりお話ししたかったです。久しぶりにお会いした方となど。(福島県の遺族)
- 初めての方、久しぶりの方などいろいろ普段話を聞くことができないことなど色々話のできた事が良かった(青森県の遺族)
- 初めてお会いする方がほとんどでしたが、皆様のパワーに圧倒されましたが、気さくに話できて良かったです。(岩手県の遺族)
- 時間はたくさんあったはずなのに、あっという間に感じました。素敵な時間をありがとうございました。(宮城県の遺族)
- 懇親会の時間をもう少し長くっていただけると嬉しいかなと思います。自己紹介で、あっという間に2時間になってしまいましたので(福島県の遺族)
- 参加させていただけて、本当によかったと思っております。今まで苦しかったこと、辛かったことなど、1つの区切りにできたように思います。(福島県の遺族)

#### 全般的に参加した後の意見・感想：

15. 全般的に今回参加してどう思われましたか？ 該当するものがあれば選んでください。

26 件の回答





「初めての人に出会えて良かった。」、「共感できる経験・話をたくさん聴けた。」、「参考になる話、ためになる話をたくさん聴けた。」、「他の遺族とのおしゃべりを楽しめた。」を選ばれた方が多かった。

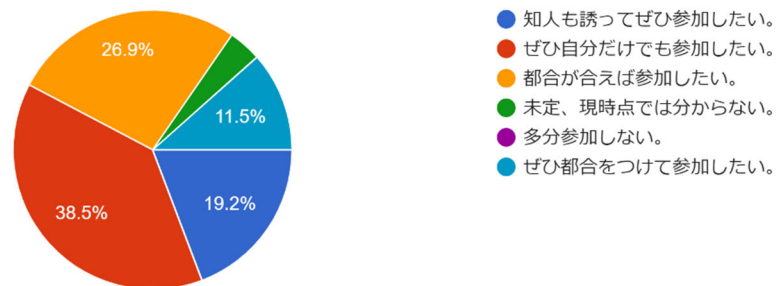
またその他自由記述には以下のようなコメントが寄せられた。

- 山形から参加する方が最初なかなか決まらなかったのが心配しましたが、赤ベコ作りや陶芸など楽しく参加頂いたようなので、本当に良かったです。このような機会を作って頂きありがとうございました。%またこの様な機会があれば、今回参加できなかった方にも是非参加して頂きたいと思います。
- このような会を企画して頂きありがとうございました。本郷さんのグリーフケアの話が聞けず、大変残念でしたが、参加できて本当に良かったです。 ナスバの催しもよく参加しますが、こんなに楽しんでいいのかなとか、なんとなく罪悪感がありましたが、事故のことに触れながら、思いを共有できたことが良かったと思います。また頑張ろうと元気になりました。(宮城県の遺族)
- ずっと東北で集まろうね。と話をしていたが、それぞれ都合やコロナもあり、企画できなかった。 また、地方にいと新しい被害者の方々に会う機会が少なく、新しい被害者と交流できたのも良かった。(青森県のご遺族)
- 自分でも、驚くほど楽しんでしまい、お恥ずかしいです。企画から、色々たいへんだったことと思います。本当にありがとうございました。現実、日常から、離れ、久しぶりに心から楽しんでしまいました。色々本当にありがとうございました。何かお手伝い出来ることがありましたら、いつでもお声がけくださいね。 本当にありがとうございました。(宮城県の遺族)
- 子どもの頃姉の事故を経験してから、自分は確実に「普通の子」の生き方はできないと思っていました。大人になるにつれて、何も経験していない普通の人のふりをするのが日常になり、同時に自分の中の辛さや苦しさが事故による喪失から来るものなのか、自分の生き方や頑張りが悪かったからなのか。よく分からなくなっていました。ですが今回、沢山の方とゆっくりお話をさせていただいて、もっと自分の生き方や頑張りを認めてもよかったのかもしれないと思えるようになりました。今回の交流会は、自分の中の悩みや悲しみの1つの区切りになったように思います。本当にありがとうございました。(福島県の遺族)

次回以降の参加について：

16. また来年も同じような交流会があれば参加したいと思いますか？

26 件の回答



「知人も誘ってぜひ参加したい」、「ぜひ自分だけでも参加したい」、「都合が合えば参加したい」と回答された方で 8 割を超えた。来年応募する参加者が今年の 28 名より増えることが予想される。

6. 今回開催して見受けられた課題と次年度に向けての対策、留意点

ハートバンドにとって地方での交流会は初めての企画・開催であり、助成金の利用も初めてであった。そのため、いくつかの困難もあり、課題も残った。以下、それらの問題、課題と次年度以降の対策、留意点を記す。

No	今回開催して見受けられた問題、課題	次年度以降の対策、留意点
1	助成対象人数を 20 人としていたが、運営委員、講師、ボランティアも含めると最終的には 28 名の参加があり、助成金だけでは足りなかった。	参加人数の枠を 30 名程度と想定して予算を組む。
2	東北全県からの参加を目指していたが、残念ながら秋田県からは今回一人も参加が無かった。今回企画したような交流会に被害者遺族が安心して参加するためには、被害者支援センターや県警被害者支援室の紹介や推薦もさることながら、親しくしている遺族から「私も参加するから一緒に行きましょう」というお誘いが一番効果的であった。	誰ともつながっていない遺族に対しては、すでに参加を決定している遺族が早めに連絡を取り、できればじかに会って顔見知りとなり、安心して参加してもらえるように努める。
3	講演、体験談発表、懇親会での各参加者による自己紹介が、特に全く初めての被害者遺族にとっては情報過多となった。	プログラム、講演内容、時間の配分について十分な検討を重ねる。また、質疑応答の時間を適宜設ける、あるいは小グループに分かれて話し合う等、双方向の交流となるような工夫を検討する。

4	当初は女性ばかりの参加となるのではと心配されたが、募集してみると夫婦や親子での参加が意外に多く年齢にも幅があった。	老若男女誰しものが参加しやすいよう、講演会・交流会の内容、アクティビティの種類、多様な宿泊室タイプを準備する。
5	交通費を実費精算としていたが、当初の予想と異なる場合が頻発し、精算がととても煩雑となった。	交通費は一定額までの補助を出すという考え方に切り替える。
6	開催・運営に関する会議が事前、当日、事後も含めて計 10 回開催された。が、運営メンバーに対する人件費は手当されていなかった。	運営メンバーの人件費も予算に組み入れておく。
7	宿泊型のイベントには会場の下見が必須であったが、交通費・宿泊費が手当されていなかった。	会場下見の交通費・宿泊費を予算に組み入れておく。

## 7. 関連報道

### テレビ

NHK 青森 2024 年 6 月 29 日 18 時 54 分「犯罪で大切な家族を失った人たちの交流会  
福島県猪苗代町」

テレビユー福島 2024 年 7 月 1 日 9 時 48 分「『ひとりじゃない、理解してくれる人がいる』 事件事故の遺族が交流 福島・猪苗代町」

### 新聞

読賣新聞 青森版 2024 年 6 月 28 日「被害者・遺族支援 充実訴え あす福島で 夫の交通死 体験語る 青森の福井さん」

読賣新聞 青森版 2024 年 6 月 28 日「泣き寝入りしない 芝居励む 福井さんの長女 来寿々さん」

河北新報 2024 年 6 月 30 日「孤立超え 語る つながる 犯罪被害者遺族が交流会」  
「遺族同士笑い合える場に－交流会を企画・井上さん夫妻」

毎日新聞 福島版、2024 年 7 月 5 日「東北の犯罪被害者 猪苗代で交流会 胸中明かし 心楽に 喪失の悲しみ 孤立させぬ」

読賣新聞 福島版 2024 年 6 月 30 日「被害者遺族の心 楽に 東京の交流会 猪苗代でも」

福島民報 2024 年 6 月 30 日「犯罪被害者遺族が交流 猪苗代 支援のあり方 意見交わす」

共同通信配信記事・千葉日報 2024 年 6 月 30 日「福島で犯罪被害者遺族交流会 夫の理不尽な死伝えたい」、「トラック追突で娘 2 人失う 井上さん夫妻 開催呼びかけ」、デーリー東北、ほか

## 8. 参考資料

記録写真、テレビニュース記事、新聞記事、開催チラシ

以上